

# 登山 月報

JMSCA 登山月報 第654号 令和5年9月15日発行



「飯豊連峰石転び沢」写真提供：山形県山岳連盟 井上 邦彦

8月11日 みんなで山を考えよう!  
 祝「山の日」  
 全国「山の日」協議会  
 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

世界選手権ベルン大会 大会報告	2
I F S C クライミングユース世界選手権2023 (韓国) 報告	4
Enjoy Climbing	6
鳥取県山岳・クライミング協会自然保護委員会のSDGsな活動	7
J M S C A 自然保護委員会フィールド研修会	8
2023 J M S C A 自然保護委員総会 報告	8
第67回全国高等学校登山大会	9
ブロック別高校登山指導者研修会 (関東) 報告書	10
寄贈図書	10
第20回 山岳遭難事故調査報告書 その2	11
JMSCA、表紙のことば	12

# No.654



# 世界選手権ベルン大会 大会報告

スポーツクライミング日本代表ヘッドコーチ 安井 博志



2023年8月1日から12日までの12日間 スイス連邦・首都ベルン市にて2年に1度開催のIFSC世界選手権大会が開催された。

日本からは総勢21名の選手が参加した。本大会はパリ2024オリンピックの最初の予選大会になっており、世界各国から多くの選手達が参加した。大会会場はボルダー予選のみカールリングホールで行い、その他のすべての競技はメイン会場であるポストファイナンス・アリーナ(アイスホッケー場)にて行われた。以下に、各種目の競技内容について報告する。

## 【大会内容の詳細報告】

### 【ボルダー男子予選(8/1)】

安楽宙斗、緒方良行がグループA、Bそれぞれの1位に立つなど日本勢5人が準決勝に駒を進めた。

### 【リード女子予選(8/2)】

グループBの森秋彩が最高高度を記録して1位に立った。またグループAはヤンヤが両完登して首位、久米乃ノ華が3位、野中が7位で準決勝に駒を進めた。

### 【リード男子予選(8/3午前)】

125人が出場した予選では、珍しく日本男子5人全員がグループBに割り振られた。好調の安楽が同グループを1位タイで通過し、さらに百合草が同6位、緒方が同9位、榎崎智亜が同

10位で予選を突破した。

### 【ボルダー女子予選(8/3午後)】

森が準決勝に進出したが、ボルダー女子世界ランク2位の野中生萌が予想に反し敗退となってしまった。野中のグループでは3課題目以降の完登者が極端に少なく、6位から14位までが2完登4ゾーンで並んだ中で完登のアテンプトがわずかに届かず12位だった。

### 【ボルダー男子準決勝(8/4)】

安楽が1位、藤井快が3位で決勝進出を果たした。ディフェンディングチャンピオンの藤井は第2課題で何度も完登に迫ったが登り切れず苦しんだが、3完登で3位につけ、勝負強さを見せた。

### 【ボルダー男子決勝(8/4午後)】

33歳のミカ・マーウェン(FRA)が初優勝し、安楽4位、藤井6位でメダルには届かなかった。

### 【ボルダー女子準決勝(8/5)】

森秋彩が5位で決勝に進出した。第2課題はループを抜けたゾーン獲得後の一手が難関であったが、見事に完登し、得意のスラブ課題も登り3完登で決勝進出した。

### 【ボルダー女子決勝(8/5午後)】

ヤンヤ・ガンブレット(SLO)が全課題をノーミスで登り優勝した。森秋彩は完登数を伸ばさず6位だった。

## ■成績一覧

種目		成績								
ボルダー&リード (パリオリンピック種目)	男子	1位 ヤコフ・シュベルト (AUT)	2位 コリン・ダフィー (USA)	3位 榎崎智亜	4位 安楽宙斗	10位 百合草碧皇	16位 榎崎明智	17位 緒方良行		
	女子	1位 ヤンヤ・ガンブレット (SLO)	2位 ジャンカ・ビルツ (AUT)	3位 森 秋彩	7位 野中生萌	25位 久米乃ノ華	30位 中川瑠	42位 松藤藍夢		
ボルダー	男子	1位 ミカ・マーウェン (FRA)	2位 シャロック・メジ (FRA)	3位 リー・ドゥーユン (KOR)	4位 安楽宙斗	6位 藤井快	7位 緒方良行	13位 榎崎智亜	14位 榎崎明智	49位 百合草碧皇
	女子	1位 ヤンヤ・ガンブレット (SLO)	2位 ベルトン・オリアン (FRA)	3位 ブルク・ラバトウ (USA)	6位 森 秋彩	24位 野中生萌	29位 中川 瑠	54位 久米乃ノ華	59位 松藤藍夢	
リード	男子	1位 ヤコフ・シュベルト (AUT)	2位 安楽宙斗	3位 アレックス・メコス (GER)	5位 百合草碧皇	12位 榎崎智亜	27位 緒方良行	31位 榎崎明智		
	女子	1位 森 秋彩	2位 ヤンヤ・ガンブレット (SLO)	3位 ソ・チェヒョン (KOR)	8位 野中生萌	18位 久米乃ノ華	29位 中川 瑠	41位 松藤藍夢		
スピード (パリオリンピック種目)	男子	1位 テカ・マデ・リタ (INA)	2位 エマ・ハント (USA)	3位 アルカント・ミコフ (POL)	12位 安川 潤	28位 大政 涼	39位 竹中 翔	41位 田淵幹規	42位 藤野柊斗	
	女子	1位 マッテオ・スルロ (ITA)	2位 ロン・ジンバオ (CHN)	3位 ラーマッド・アディ (INA)	28位 竹内亜衣	30位 河上史佳	32位 林かりん	34位 林奈津美	39位 金谷春佳	

は決勝進出

は準決勝進出

### 【リード女子準決勝(8/6)】

森が1位、野中が8位タイで決勝進出を果たした。森は粘りのクライミングで完登に迫り、2位のヤンヤに5手差をつけ、野中は世界選手権のリード種目で自身初の決勝進出を果たした。野中はボルダーで予選落ちを喫し、苦しい展開だった野中は会心の登りでB&L種目準決勝進出に成功した。

### 【リード男子準決勝(8/6)】

ハードなルートで多くの選手が苦戦する中、百合草碧皇が5位タイ、安楽が7位で決勝に進出した。

### 【リード女子決勝(8/6)】

森が完登で優勝を果たした。リード種目での優勝は男女を問わず日本人初、世界選手権の優勝は日本女子初の快挙となった。これまでリード種目の最高順位は平山ユージ氏の2位、日本女子の優勝は種目を問わず初めてであった。

### 【リード男子決勝(8/6)】

安楽が会心の登りで銀メダルを獲得した。優勝したヤコブ・シューベルト(AUT)はリード男子で最多となる世界選手権4度目の頂点に輝いた。また、ここまでの競技結果により、パリオリンピック出場権のかかったボルダー&リード種目(以下B&L)準決勝への進出者となる20位が決まった。日本からは、男子5名、女子2名で臨むこととなった。

### 【ボルダー&リード女子準決勝(8/9)】

ボルダーでは、野中が4位、森が6位といずれも上位につけ、リードへ繋げた。リードでは森が終了点直下に迫り92ポイントを獲得し、1位を獲得した。結果、森は合計136.9ポイントで総合2位。1位は175ポイントのヤンヤだった。ボルダー4位だった野中は41+で6位タイのポイントにより、合計108ポイントの総合5位で決勝進出を果たした。

### 【ボルダー&リード男子準決勝(8/9)】

ボルダーでは、安楽、榎崎智亜で1、2位と上位を独占した。安楽は第3課題以外を完登して84.9ポイント、榎崎智亜は完登率の低かった第3課題を登るなどで、84.7ポイントで続いた。リードは安楽が見事に完登で1位、合計184.9ポイントで総合1位。榎崎は6位で、合計148.7ポイントとなり総合4位で決勝進出を果たした。

### 【スピード男女予選(8/10)】

男子77人、女子58人が出場。1本目に5秒27をマークした安川潤が8位で決勝トーナメント進出を果たした。予選通過のために必要な16位の男子選手タイムは5秒39であった。5秒14の日本記録を持つ大政涼は5秒54で28位だった。女子の日本勢最高は竹内亜衣の28位でタイムは8秒09。予選通過の



B&L参加選手

ために必要な16位の女子タイムは7秒48であった。

### 【スピード男女決勝(8/10午後)】

決勝トーナメントでは、五輪へのプレッシャーもあり多くの選手がミスを犯し、想定外のレースが相次いだ。日本から唯一決勝進出した安川はリシャット・カイブリン(KAZ)と対戦したが、途中のホールドを掴めず落下してしまっ。男子は優勝のマッテオ(ITA)、2位のロン・ジンバオ(CHA)、女子は優勝のデサク・マデ(INA)、2位のエマ・ハント(USA)の4名がパリオリンピックチケットを獲得した。

### 【ボルダー&リード女子決勝(8/11)】

ボルダーでは野中が最終第4課題目のコーディネーションムーブを唯一こなし完登する会心の登りを見せ5位となり、リードに望みを繋げる。森は得意ではないダイナミックな動きに苦戦しながらも44.5ポイントで6位となる。

リードで野中は懸命な登りを見せたが力尽き、総合7位。森は完登まで残り1手となる96ポイントを取れば五輪に内定するギリギリの状況下で、焦る様子はなく、見事に五輪行きがかかる一手を掴み大逆転の総合3位となり、念願のパリ行きチケットを手中に収めた。

### 【ボルダー&リード男子決勝(8/12)】

ボルダーでは榎崎智亜が全課題を完登する見事なパフォーマンスで1位となる99.7ポイントを獲得。ただ、全体的に易しい課題が多く完登数が多かったため6位までとの差はおよそ20ポイント程度であった。リードを得意とする選手たちとそれほど差をつけられずリードへ移る展開であった。安楽も3完登し、3位で85ポイントと十分にポイントを獲得した。

リードでは、榎崎らしくハイペースでルートを進むが小核心の高度35で足を滑らせてしまいフォールした。これにより五輪内定は後続3人の結果次第となる。榎崎が暫定3位の状況で最後に登るのは安楽。3位に榎崎がいることで日本人の五輪内定はこの時点で決まるも、残り1枠をめぐる榎崎と安楽



ボルダー、リード参加選手



スピード参加選手



が争う形となる。リードも得意な安楽が優勢と思われる展開だったが終盤の4ポイントゾーンに入った直後にフォール。榎崎が逃げ切って五輪内定を決め、安楽は4位となった。

## 【最後に】

東京大会を終え、あっという間にパリオリンピックへの予選大会がスタートしたと感じています。東京大会後にユース世代から世界で戦える多くの選手が現れ、それにベテラン選手も負けず実力を伸ばしてきました。年齢と経験の差が大きく個性的な選手が日本代表チームを活性化し、さらに強いチームへ成長しています。またこれまでスピード種目では後進国でしたが、アスリートパスウェイ支援事業の委託などの取り組みにより底辺の拡大、競技普及の促進ができたことによりスピード種目でも世界で戦えるチームになってきました。

パリオリンピックへ向けてギリギリ間に合ったと感じます。これも選手達を支える多くの方々のご尽力の賜です。本大会ではコンディショニングも精神的にも厳しい戦いではありませんでしたが、厳しい代表選考を突破した参加選手達はよく健闘してくれました。選手達を誇りに思います。パリオリンピックへ内定した榎崎智亜選手、森秋彩選手 おめでとう。パリオリンピックへ向けては今後もアジア予選、オリンピック予選シリーズと2つのイベントが控えまだまだ厳しい予選会が続く、各選手達は日々目標へ向けてより一層の努力を求められます。パリオリンピックで「金メダルを含む複数のメダル獲得」という目標達成のため私たちはさらに前進する必要があります。本大会中も時差に関係なく多くのご声援をいただきありがとうございました。選手達の力となりました。スポーツクライミング日本代表選手達へ変わらぬご支援お願いいたします。

# IFSCクライミングユース世界選手権2023 (韓国) 報告

ユース日本代表ヘッドコーチ 西谷 善子

2023年8月18日～8月27日に韓国・ソウルで世界ユース選手権が開催されました。選手選考では、昨年度は複合(B&Lポイント)からも選考していましたが、今年度より方針を切り替え、2028年のロス五輪を見据えた各単種目での強化を図るため、種目毎に選考を行い派遣しました。

全部の競技壁が屋外、さらに猛暑・雷雨にも見舞われ、スケジュールが大幅に変更となる種目やカテゴリーもあり、選手たちにとって過酷な環境でしたが、一人ひとり最後まで諦めずに競技と向き合い、自身の最大限のパフォーマンスを発揮してくれ、最終的に3種目合わせて金6個、銀7個、銅7個と合計20個のメダルを獲得することができました。

国際大会初出場の選手が多い中、これまで日本代表/ユース日本代表に選ばれた選手が良い雰囲気チームを牽引してくれて、コーチ間でも密に連携を図りながら大会中の混乱をカバーし合うことができ、一人でも欠けていたらこの成績は残せなかったと思っています。

引き続き、チーム一丸となって残りの2023シーズンを乗り越えていきたいと思っておりますので、ご支援の程よろしくお願致します。

## 【優勝選手からのコメント】

### ●濱田琉誠(ユースBリード優勝)

世界ユースに出て、世界でどれくらいの立ち位置にいるかを知ることができたので、とてもいい経験となりました。来年はリードで完登、ボルダーで全完して優勝できるように、レベルを上げていきたいです。

### ■獲得メダル数

	金	銀	銅
リード	2	5	4
ボルダー	3	2	2
スピード	1	0	1
合計	6	7	7

### ●小田菜摘(ユースBリード優勝)

2回目の国際大会にでて、昨年悔しい思いをしたぶん今年頑張ってきて、リードは優勝という形でおわれてとても嬉しいです。来年も優勝して2連覇したいです。また、シニアの大会にも出れるようになったのももっと練習して上を目指していきたいです！

### ●関口準太(ジュニア男子ボルダー優勝)

ラストユースを優勝という形で終わることができてとても嬉しいです。ユースでの経験を活かしてシニアでも活躍できるように頑張っていきます。

### ●通谷 律(ユースA男子ボルダー優勝)

今回は勝てる大会で勝つという世界ユースでの目標を達成できたのは、自分の中では成長だと感じました。今年のワールドカップは思うようにできなかったのも、またトレーニングして来年は優勝を狙いたいです。

### ●村越佳歩(ユースA女子ボルダー優勝)

優勝できたことに驚いています。今回の結果は自分にとって大きな自信になったので、これからも、もっと強くなりたいです！

## ■リード結果

U 20 (ジュニア) 男子	鈴木音生	静岡県立大学	2位
	村下善乙	法政大学	3位
	関口準太	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	7位
	上村悠樹	東京都山岳連盟	10位
U 20 (ジュニア) 女子	高尾知那	中京大学	2位
	小倉紗奈	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	3位
	富生真白	同志社大学山岳	7位
U 18 (ユースA) 男子	小俣史温	東京都山岳連盟	2位
	石津元崇	山口県山岳・スポーツクライミング連盟	6位
	船木 陽	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	25位
U 18 (ユースA) 女子	望月萌叶	神奈川県山岳連盟	3位
	山真奈実	三重県山岳・スポーツクライミング連盟	4位
	柿崎咲羽	東京都山岳連盟	14位
U 16 (ユースB) 男子	濱田琉誠	神奈川県山岳連盟	1位
	長森 晴	所沢市立山口中学校	2位
U 16 (ユースB) 女子	戸田凌大	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	3位
	小田菜摘	大阪府山岳連盟	1位
	麦島心花	愛知県山岳連盟	2位
	山根嘉穂	茨城県山岳連盟	7位

●林かりん (ジュニア女子スピード優勝)

今シーズンは、去年のように満足いく成績が出せず世界ユースの直前まで苦しい4ヶ月をすごしていました。競技をした中でいちばん苦しかったし、逃げ出したくなったこともありましたが、『自分は世界ユースで優勝する!』という強い気持ちを持ちつつ、大会では無心で登ることを意識し、集中したら優勝することが出来ました。今の環境、支えて下さるコーチの方家族応援して下さる方々のおかげでこのような結果が出せたとても感謝しています。次は、オリンピック出場という夢に向かって日々できることを積み重ねていきたいです。



ジュニア男子リード



ジュニア女子リード



ユースA男子リード



ユースA女子リード



ユースB男子リード



ユースB女子リード



ジュニア男子ホルダー



ユースA男子ホルダー



ユースA女子ホルダー



ユースB男子ホルダー



ユースB女子ホルダー



ジュニア女子スピード



ユースA男子スピード

©Dimitris Tosis/IFSC

■ボルダー結果

U 20 (ジュニア) 男子	関口準太	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	1位
	田宮瑛人	東京都山岳連盟	4位
	篠沢 諒	東京都山岳連盟	9位
U 20 (ジュニア) 女子	竹内亜衣	千葉市立千葉高等学校	4位
	小倉紗奈	同志社大学	10位
	葛生真白	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	13位
U 18 (ユースA) 男子	通谷 律	佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟	1位
	加藤頼斗	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	2位
	杉本侑翼	近畿大学工業高等専門学校	4位
	寺川 陽	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	14位
U 18 (ユースA) 女子	村越佳歩	茨城県山岳連盟	1位
	永嶋美智華	静岡県立静岡西高等学校	4位
	山真奈美	三重県山岳・スポーツクライミング連盟	6位
U 16 (ユースB) 男子	濱田琉誠	神奈川県山岳連盟	2位
	長森 晴	所沢市立山口中学校	3位
	笹原容翠	東京都山岳連盟	4位
U 16 (ユースB) 女子	小田菜摘	大阪府山岳連盟	3位
	松浦朱希	東京都山岳連盟	7位
	小屋松恋	横浜隼人高等学校	12位

■スピード結果

U 20 (ジュニア) 男子	藤野柊斗	東洋大学	9位
	三田歩夢	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	12位
	真鍋 竜	愛媛県山岳・スポーツクライミング連盟	30位
U 20 (ジュニア) 女子	阿部央彦	愛媛県山岳・スポーツクライミング連盟	32位
	林かりん	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	1位
	竹内亜衣	千葉市立千葉高等学校	10位
U 18 (ユースA) 男子	多月萌々菜	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	17位
	谷井和季	檀原学院高等学校	3位
	上柿銀大	岩手県山岳・スポーツクライミング協会	4位
U 18 (ユースA) 女子	田淵幹規	上宮高等学校	10位
	河上史佳	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	5位
	金谷春佳	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	19位
U 16 (ユースB) 男子	石田観千	福岡県山岳・スポーツクライミング連盟	15位
	小田菜摘	横浜隼人高等学校	6位
U 16 (ユースB) 女子	西村優杏	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	12位
	麦島心花	愛知県山岳連盟	16位

はメダル獲得選手



# Enjoy Climbing

## パキスタン チャラクサ氷河クライミングツアー 2022 ③

### 佐藤裕介 記

以下トンガリピーク各ピッチの体感グレードも記した。

#### 1 P目 5.9 (30m) 佐藤

出だし、岩質にも慣れてなく少々緊張するが直ぐに傾斜緩まり最後はワイドからカンテ際の立派なボルト&カムでピッチを切る。BCから近くこれだけ尖がって目立つピークは当然のように登られていて、下降点らしきアンカーも散見できた。さっきまでは暑かったのに急に天候悪化して雪がちらつきだす。薄着が祟りいきなり寒い。

#### 2 P目 5.10 - (40m) 坂本

オフウィズス〜草〜ハンド〜ハングを右から抜ける綺麗なクラックに見えたが途中邪魔な草がクラックを覆っていた事と、クラックが微妙にフレアしていることなどがあってそれ程スピーディーなクライミングにはならなかった。

#### 3 P目 5.10 - (50m) 田中

奥にジャムの決まるフレアワイド。中々スピード出せず、「ハーハー」言いながら登ることになった。ちゃんと高所順化するにはもう少し時間が掛かりそうだ。

#### 4 P目 振り子〜5.10 - (50m) 佐藤

ハンドクラックで快適だが左上していて少々登りにくく、やはり息が切れる。最後は飛び出たピナクルに乗ってハンギングビレイ。ここまで全てハンギングとなり傾斜がずっと強い。

#### 5 P目 5.10 - (40m) 佐藤

坂本のリード番だが、暗くなりそうなのでそのまま佐藤がリード。15mの左上ハンドクラックを抜けると傾斜が緩まり凹角をスピーディーに上がる。本当のピーク手前から見上げるオニギリピークまではリッジ状で最初の2mでカムを決めたらそこから先プロテクションは取れそうにない。ノープロ、若干フリーソロ気分で気合いを入れて10mを登ってピークに立った。と言っても実際はリッジに跨るのが精一杯。セルフビレイも取れないのでやっかいだ。オニギリピーク手前でしっかりした支点到マイクロトラクションをかましてるのでラスト10mまではビレイに近い状態。そこからのクライミングは佐藤がリッジに跨りボディビレイしているだけなので、フォローでも落ちることは基本許されない。3人とも無事にピークに立ち、2人をローダウン気味に降ろす。「ラストはクライムダウン」と思っていたが2人が苦労してクライムダウンしているのを見てビビる。かなり薄



トンガリピーク3P目(7月24日)

い2cm程の岩角利用の懸垂下降としたが、当然ながらこれも非常に怖かった。そこからは同ルート下降。1回目からロープが引っ掛かり回収に手間取った。全てハンギング状態なので様々な作業が難儀である。顕著なクラック沿いに降りているので常にロープスタックの可能性がありドキドキしながらロープを引いていたが、遂に3回目の懸垂下降で完全にロープスタック。佐藤が余っていたロープを使ってリードの登り返し。寒さも影響かなり消耗しながら取り付きに着いたのは21時30分。不安定なガレ場をヨレヨレになりながら下る。ヘッドライトも暗くなってしまった。「まさかこんな遅くなるとはねえ」宿泊セットをデポしていた地点に着きテントに潜り込んだのは23時頃を過ぎていた。

**使用ギア：**ハーフロープ8mm×50m二本、カム1.5セットC4#5まで、ナッツ、捨て縄

#### 7月25日 4900m (8:00) - BC (10:00)

雨の中、BCへ下りる。(特にオマケで行ったクライミングで)随分とハードな順応山行となってしまった。

#### Naysar Brakk (5200m) British Route

#### 7月27日 晴れ、夜から雨。BC (14:00) - ナイサブラックABC (18:30)

順応山行から1日のレストを挟み、ナイサブラックへのトライに出かけた。

チャラクサ氷河のK7BCからは少し下流側に三角錐状のカッコいい山容が見える。これがナイサブラックだ。ここに来る度にいつか登りたいなと思わせる目立った存在であった(佐藤は偵察で訪れた時も含めると3回目のチャラクサ氷河である)。標高は5200mと高くないしBCから右奥に見えているスカイライン(British Route)なら登攀距離も短く順応がてら登れそうにも思えた。2019年信州大学学士会パーティーも完登している課題である。

真昼間の行動は暑すぎるだろうと少し遅めに出発した。BCから良く見えているルンゼから取り付きのコルに行けば距離は短い、傾斜のあるルンゼ内での落石等が怖い。ルンゼ内に残っている雪も気になったので、回り込んで反対側からアプローチした。思った以上に時間がかかり夕暮れ間近にコル手前の水の出ている場所

に到達。ここをテン場と決める。明日のアプローチを確実にするため2人はコルまで偵察、佐藤はテン場の整地をすることにした。真っ暗になってから2人が帰ってくる。整地も概ね済み快適なビバーク地となった。夜半から全く予想外の雨音で目を覚ます。予報も当てにならないなあ。

#### 7月28日 雨 ナイサブラックABC (9:00) - BC (11:00)

雨は朝になってもやまず、どうしようもないので下山する。天気が回復し次第戻ってくるつもりでテントやクライミングギアの大半をデポした。

#### 7月29日 曇り時々晴れのち雷&雨BC (4:30) - コル取付 (9:10) - ピーク (13:30) - 取付 (15:30) - BC (18:20)

3時起床。と言うか思いっきり寝坊して2人に起こさ

れるが、パツとしない天気だ。

坂もっちゃん「雨パラついてますけど。。。行きます？」

昨夜から断続的に降っていた雨は止んでいたが厚い雲が空を覆い、いつ降ってもおかしく無かった。

ゆーすけ「まあ、チャンスがあるなら行ってみよう。ダメなら帰ってくればいだけだから」

寝坊したくせにいつものポジティブ発言で出発を決めた。日本でのトレーニング時からリーダーのイケイケの mindset を知っているのだから「いつもの事だから、そうくると思った」と若干渋々なメンバーだったがスタートする。詰め上がる谷の先にはガスが立ち込めて登攀日和とは程遠く皆気が重かった。それでも取り付きに着くころには晴れ間も見えてきて一気に元気になった。-以下次号-

## 鳥取県山岳・クライミング協会自然保護委員会のSDGsな活動

鳥取県には中国地方最高峰の大山がそびえ、四季を通して多くの登山者で賑わっています。しかし大山の地質はもろく日本海に面した北壁、山陽側の南壁はたえず崩落を繰り返しています。

頂上台地は昭和30年代の登山ブームでゴミが散乱し、植物を踏まれ、裸地化が進んで来ました。そのうえ崩落や侵食が進み、どんどん姿を変えていきました。

山岳関係者の呼びかけで、昭和52年大山をゴミから守るため官民協働で頂上のゴミ箱を撤去し「ゴミ持ち帰り運動」を展開、更に昭和60年には裸地化した頂上を取り戻すため「一木一石運動」を展開しました。

これらの運動は、大山登山を目指す一般登山者全員を対象に、協力を呼び掛け自然の大切さ、保護活動の大切さを訴える活動です。こうした先人達が行ってきた終わりの見えない自然保護活動を、現在も一般登山者を巻き込み継承し続けています。

今では多くのボランティアにより頂上から麓までゴミが激減し、頂上も毎日多くの登山者が運び上げる小石で侵食をふさぎ緑が復活しています。

その他、崩壊を繰り返している管理者のいない登

山道の整備や、放牧のために消滅した湿原の復元や花の咲き誇る草原の復活にも行政と協働で取り組んでいます。

しかし、コロナ禍の3年間で過ぎ、若いと思っていた自然保護委員も主力メンバーが60歳台後半になり、後継者作りの必要性が迫ってきました。

また人員不足の不安もあり、自然愛好者をボランティア活動に参加してもらおうと模索中です。

(鳥取県山岳・スポーツクライミング協会  
自然保護委員長 松塚明則)



保全作業用資材を運び上げる会員



椰子マットで崩落阻止



中宝珠尾根修繕後



中宝珠尾根修繕前



## JMSCA自然保護委員会フィールド研修会

6月10～11日、御坂山地の東側、富士箱根伊豆国立公園の特別地域三ツ峠山にて、2023年度自然保護委員会フィールド研修会を山梨岳連、都岳連と共催して行った。三ツ峠はアツモリソウやカモメラン等の自生地としても知られる高山植物の宝庫。この地で希少植物の保護や植生の保全活動を行っているボランティアグループを主宰する三ツ峠山荘の中村光吉氏にご協力を頂いた。

10日11時40分、研修開始。まずは、希少植物の観察会。小屋から数十メートルの所に設置された防鹿柵の鍵を開けてアツモリソウ保護地に分け入る。山頂周辺の登山道の殆どは、しっかり施錠された防鹿柵が取り巻いている。聞けば、防鹿柵の新設を進めると共に、2021年秋頃から柵を飛び越え侵入し始めたシカへの対策として、昨年は既存の柵を1.7mから2.7mの高さまで嵩上げ、またシカがよじ登って侵入する経路となっていた立木へも障害物を取り付けるなどの作業をした結果、柵内への侵入は現在のところは治まっているとのこと。まさにヒトとシカの「いたちごっこ」である。

夜間の監視カメラによる撮影では、柵の外を闊歩し踏み荒らすシカの群れが毎晩のように記録されているとのことであるから、防鹿柵による植生保護機能は十分働いているようだ。

お目当てのアツモリソウは頑丈な鉄柵の中で見事な花をつけていた。非常に珍しいキバナアツモリソウも見せて頂いた。しかしながら、全ての株が防鹿柵の中に設置された檻の中で保護されていることに非常に複雑な思いを抱いた。それだけシカの食害が深刻であり、また残念ながら未だに盗掘も確認されており、また近年では花の撮影を目的とする人の踏み荒らしや踏み固めにより自生地の縮小が危惧されているという。それらへの対応策は現状これだけしかないであろう。

三ツ峠の三つの峰々を巡り、カモメランやアオチドリ、シロバナフウリンツツジ等を観察後、こうした花々の生育環境を維持するための除草作業に協力した。ターゲットはテンニンソウ。日本各地に自生する野草で暑さ、寒さに耐える丈夫な植物だけに繁殖力も旺盛。参加者全員で草取りに汗を流した。

夕食後、中村氏より三ツ峠の自然景観や生態系について、またそれを調査保全していくための活動についてご講演を頂いた。特に国立公園内での活動であるため、日頃から行政との強い絆が大切であることを改めて痛感、私たちの今後の活動に活かしていきたいと思う。

翌日は早朝より大雨。野外での活動を中止し、研修を終了した。



アツモリソウもカモメランもベストのタイミングで見せて頂いた。除草作業にもほんの僅かだが協力でき、参加者全員ととても気持ちよく山を下りた。中村氏、三ツ峠山荘スタッフに改めて感謝申し上げる。

(自然保護委員長 小高令子)

## 2023 JMSCA自然保護委員総会 報告

6月15日19時10分より、J S O Sビル3F会議室にて対面およびzoomにより理事、常任委員、専門委員15名が参加して2023年度自然保護委員総会が開催された。

まず、主催者を代表し前田主幹理事より、「登山月報等いろいろな場面で活動の見える化が進んでいる。本日は、昨年度の活動報告・決算、今年度の予算等の審議を通じ、委員会事業を活発に進めていくための議論をしていただきたい。JMSCAが抱えている赤字については、今後の対応を検討中である」旨の挨拶があった。続いて委員長より23年度の活動方針として「①委員会活動の見える化を更に充実させ、『自然保護指導員』と『登山道の整備』に関する議論・活動に傾注する。②秋の自然保護の集いはリアル開催を目指しオリセンを確保。③出前講座は2県程度実施する。④昨年度、自然保護指導員の特定を行い862名を確認したが、引き続きデジタル化に向け情報整備を進める」ことが示された。続いて22年度の事業報告及び23年度の事業計画が資料に沿って説明された。

更に会計担当猪狩委員より、22年度の決算報告及び23年度の予算が示された。昨年の予算額と決算額との大きな差異は、コロナ禍により委員だけの参加となった研修会やzoom開催となった自然保護の集い等で収入・支出が発生しなかったことによるとの説明、さらに補正予算が承認され、自然保護指導員の腕章代が支出されているとの補足があった。また、今年度JMSCAの財務状





況により予算削減の可能性がある旨の説明があった。

続いて23年度の自然保護委員会の体制につき、10名の常任委員が原案通り理事会で承認され、専門委員と併

せ15名の体制で活動を担っていくことが報告された。

以上の報告、提案は、満場一致で了承された。

(自然保護委員長 小高令子)

## 第67回全国高等学校登山大会

令和5年度全国高等学校総合体育大会登山大会 第67回全国高等学校大会は8月7日(月)～11日(金祝)の日程で、北海道東川町、上川町、美瑛町、上富良野町を会場として大雪山・十勝岳山系を舞台に開催された。感染症分類が5類になり、さまざまな社会活動が平静を取り戻していく中で、幕営・炊事などの本来の活動がすべて復活した、久しぶりのフルコンテンツの登山大会となり、全国から455名の選手・監督と100名を超える役員が北の大地に集結した。

主管する北海道では感染症対策に留意しつつも、ほとんどの選手が初めて触れる雄大な北海道の大自然を十分に味わうことができるよう、コースや運営に気を配って準備を進めていった。

開会式は参加規模や事前の配宿地の関係から、会場地ではないものの近隣の大都市である旭川市が会場となり、旭川市民文化会館で8月7日に開催された。式典に先立ち旭川東高等学校音楽部による歓迎アトラクションがあり、会場は地域屈指の同校の合唱の清らかな音色に包まれた。

開会式後はすぐに審査が始まり、コース隊編成後は東川町B&G海洋センターグラウンドに移動して設営審査・炊事審査と進んでいった。大雪山を背後に抱く東川町は豊富な水量を誇る名水で知られる町ではあるが、水圧の関係から流水が使用できず、陸上自衛隊から給水トレーラーによる支援を受けての炊事であった。

8月8日の十勝岳コースは稜線上の強風の見込みや悪天予報などに鑑み、コースを途中でカットしての折り返し、サブザック行動へ変更しての登山となった。せっかくの十勝岳を諦めることとなったが、安全登山を主目標としている本大会では勇気を持って決断して実施することを旨としている。下山後は白金温泉での入浴となり、冷えた身体を温めて幕営地に戻っての設営となった。その

後の激しい降水で幕営地が浸水する状況となり、テントをそのままにメインザックを持って近隣の中学校、高校の体育館に避難しての宿泊となった。

8月9日は早朝から層雲峡温泉へと輸送し、朝一番のロープウェイ・リフトを利用して黒岳に至り、そこから北鎮岳を経て長駆大雪山・姿見の池にいたるロングコースで、エスケープも難しく体調不良など不測の事態への対処が心配されたが、気温も下がり天候にも恵まれ、離脱が発生することなく無事に登山行動を終えることができた。

8月10日は気象状況も安定し、大雪山の山容が本部や幕営地からはっきりと眺めることができ、好天とともに気温の上昇も予想された。姿見の池までのチーム行動中にも体調不良を訴えるチームが何件か発生し、医療チームを投入しての対応を余儀なくされた。時間経過とともに各チームの疲労度も上がり、旭岳までの班行動では男子A隊は予定通りメインザックでの行動を実施できたものの女子B隊では急遽サブザック行動へ切り替えての登山となった。北海道最高峰の旭岳山頂を踏み、監督も合流するパーティー行動で大雪山の自然を堪能することができた。インターハイの登山行動では選手と監督と一緒に歩く機会がなかなか持てない中で、最後の思い出作りができる山行となった。

「山の日」の8月11日の閉会式には4日間にわたる大会を無事に終えた安堵の顔が再び旭川市民文化会館に集結し、健闘したパーティーが表彰の栄冠を受けた。緞帳が降り満場の拍手と感動のなか、北海道での大会は閉幕を迎えた。

登山は野外活動であり、気象条件その他の影響を直接に受ける。緊急の変更も毎年のように行っている。収束しつつあるとはいえ、今大会でも体調に変容を生じ、地元での予選を勝ち抜き全国大会に出場する榮譽を得ながら棄権を余儀なくされたパーティーもある。そのようななかで天の時、地の利、人の輪が相まって無事に大会を終えることができたことはひとえに北海道の皆さまのご尽力の賜物である。改めて御礼を申し上げたい。そして天候により登りそこねた山は次回への宿題である。これからも安心、安全の登山ができる力量を身につけ、いつかまた北海道の山々を訪れてくれることを祈念して今大会の報告とする。

(公財)全国高等学校体育連盟登山専門部

JMSCA理事 前田彦彦



# ブロック別高校登山指導者研修会（関東）報告書

8月18・19日（金・土）西丹沢大滝キャンプ場周辺でブロック別高校登山指導者研修会がおこなわれた。これは神奈川県高体連登山専門部が夏休みに毎年実施している生徒対象の「リーダー講習会」を県を超えたブロックに発展させたものだ。昨年度の「リーダー講習会」は読図力の向上を目標にして、日本オリエンテーリング協会の村越先生に講師をお願いして1泊2日の日程でおこなった。これが好評だったので今年も同じ形で実施することにした。

日本オリエンテーリング協会から講師として河合芳尚氏、小泉成行氏ほかアシスタントとして5名の方々が来てくださった。7校生徒21名、顧問11名が参加。埼玉県から坂藤先生（所沢高校）が参加してくれた。

18日西丹沢大滝キャンプ場で10時受付、10時半開講式。2つの班を作り11時からさっそく講習開始。大滝キャンプ場から畦が丸へ行く林道途中から尾根に取り付き権現山を目指す。途中まではかなりの急登だ。この尾根を含めて我々が歩いた道は地図には載っている登山道ではない。ただまったく人が入っていないわけではない。途中2人の登山者とすれちがった。講師の先生は途中何か所かのポイントで生徒にいろいろと質問をする。「この地点が地図上のここだと

いえるのはどうしてですか？」「なにを根拠にしましたか？」など。周囲の地形の観察、尾根なのか谷なのか、地図からこの先どんな地形が予測できるか、先読みの大切さなどを教わった。現在地を特定するのが難しい地点ではみんなで意見を出し合って考える。これは勉強になる。権現山からは稜線を歩き、一軒家避難小屋近くに出る尾根を下った。18時頃キャンプ場に帰着。この日の講習は終了。テントを設営し、各校で炊事をする。

19日は4時起床6時にキャンプ場出発。一軒家避難小屋、大滝峠上を経て屏風岩山に向かった。今日は5～6名で班を作り、そのメンバーで意見を出し合っただナビゲーションをしていった。屏風岩山からは「この先道なし 引き返せ」のプレートが付けてある尾根を下る。12時半にキャンプ場に帰着し、2日間の講習会を終了した。

今まで先生や先輩の後ろをただついて歩くだけの生徒たちが、地図とコンパスを使って自分自身や仲間をナビゲーションしていく。こうした経験を積んでいくことで一歩ずつ「自立した登山者」へと近づいていく。いい研修会になった。来年度もこのかたちで実施したい。（谷口浩平）



## 寄贈図書

新潟県山岳協会	新山協ニュース 第367号	会報	(公社)日本武術太極拳連盟	武術太極拳No.402	会報
公益財団法人 健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」2023⑧ No.544	会報	株式会社ネイチュアエンタープライズ	岳人 2023 September No.915	雑誌
日本運動具新報社	スポーツ産業新聞 第2405号	新聞	株式会社日本運動具新聞社	「スポーツ産業新報」No.2407	新聞
兵庫県山岳連盟	兵庫山岳 第674号	会報	東京野歩路会	山嶺 Vol.100 No.1122	会報
公社日本ネパール協会	会報 2023年夏号 No.263	会報	三峰山岳会	会報誌『岩つばめ』371号	会報
公益財団法人埼玉県スポーツ協会	スポーツ埼玉 Sports 2023夏号 Vol.299 令和5年7月31日発行	会報	おいら山岳会	山行手帖 No.765.73. 9	会報
(株)山と溪谷社	「山と溪谷」9月号 No.1068	雑誌	JAPA	日本山岳写真協会ニュース 第505号	会報
株式会社ネイチュアエンタープライズ	岳人 2023 September No.915	雑誌	日本山岳会	山 8月号 (No.939)	会報
日本運動具新報社	スポーツ産業新聞 第2406号	新聞			





**山岳団体 (JMSCA、労山) の組織情報と事故調査**

**1. JMSCA・労山にみる会員数と事故発生状況**

JMSCAと労山の会員数は図1に見られるように、JMSCAの急激な減少は緩和したもの、共に減少傾向が止まらない。会員数は両者併せて58990と6万台を割った(表4)。事故者数は労山が対前年度65人の増加、JMSCAが155人の減少となり、両者併せて747人であった。また、死亡は併せて12人となり、全体的な傾向としては安全側に推移している。事故者に占める死亡率も、高齢化により登山形態の変化によるものか、毎年減少している。

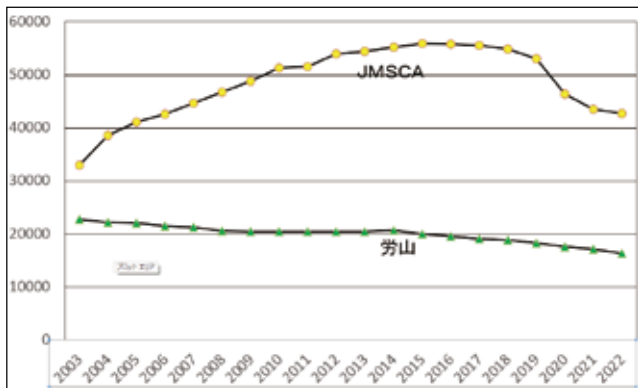


図1 JMSCA・労山会員数の推移

2003-2022	年度	会員数	事故者数	死亡者数	アンケート 回答数	回答率(%)	割合(前年比) 1.0	割合(前年比) 2.0	死亡率(%)
山岳連、山岳連、山岳連	2003	59426	526	23	199	33.7	112	2364	4.6
山岳連、山岳連、山岳連	2004	65238	420	17	189	40.2	135	5931	2.6
山岳連、山岳連、山岳連	2005	68430	446	26	38	21.5	132	2444	6.2
山岳連、山岳連、山岳連	2006	75417	479	21	220	48.0	147	2272	6.3
山岳連、山岳連、山岳連	2007	73468	516	24	227	45.9	142	2060	4.1
山岳連、山岳連、山岳連	2008	73668	527	22	218	46.9	139	2348	4.2
山岳連、山岳連、山岳連	2009	78290	530	27	179	29.4	149	2148	7.0
山岳連、山岳連、山岳連	2010	82454	524	24	198	34.1	148	2361	4.7
山岳連、山岳連、山岳連	2011	89781	679	21	190	24.1	142	4274	3.2
山岳連、山岳連、山岳連	2012	74495	613	19	214	34.9	151	4334	2.6
山岳連、山岳連、山岳連	2013	74835	705	31	220	31.9	156	2414	4.4
山岳連、山岳連、山岳連	2014	110516	690	28	221	26.9	150	2808	4.9
山岳連、山岳連、山岳連	2015	130111	640	27	247	26.7	158	2317	3.9
山岳連、山岳連、山岳連	2016	138960	1090	39	228	20.9	127	4632	3.9
山岳連、山岳連、山岳連	2017	148153	1077	37	202	25.5	137	4004	3.4
山岳連、山岳連、山岳連	2018	156591	1077	42	315	29.7	145	3728	3.9
山岳連、山岳連、山岳連	2019	163419	1038	30	251	24.7	157	3447	2.9
山岳連、山岳連、山岳連	2020	52981	601	16	229	29.8	79	2998	2.9
山岳連、山岳連、山岳連	2021	60585	627	14	228	27.4	72	4328	1.7
山岳連、山岳連、山岳連	2022	58990	747	12	222	21.1	78	4818	1.6

表4 JMSCA、労山など、会員数、事故者数の経年変化

**JMSCA会員年齢分布を参考にした登山者年齢分布の推定**

JMSCA会員の世代分布を7年の経年変化として図2に示す。図中に添付した労山の会員年齢分布も類似した曲線を描く。一方、図中の事故者の年齢分布は2022年の図6(後述)を棒グラフで描いたものである。登山者も事故者も70歳代にピークを持つ曲線となる。全国の登山者年齢分布

も同様の分布を示すと推定している。

図中、7年の経年変化は分布曲線が確実に右方向にシフトしながら全体的に低下し、かつピーク右側の高齢化曲線に収束する。この束になる曲線群の流れが、登山者の高齢化による登山活動停止を示すのか、新たな曲線を描き出すのか関心が持たれる。

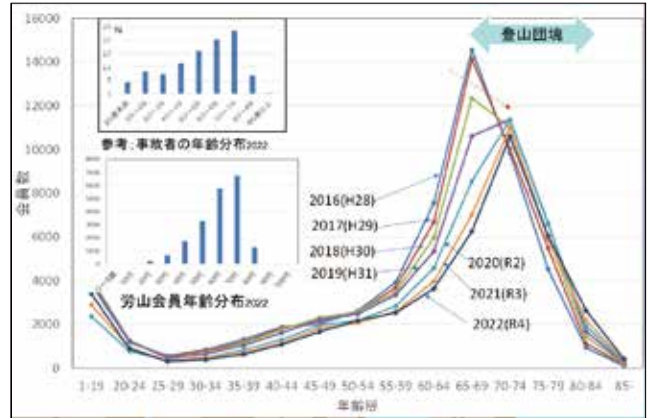


図2 JMSCA会員数(2016-2022)の変遷

**レジャー白書から見た登山活動**

レジャー白書は、1979年より15歳以上男女約3000人を対象に、アンケートの訪問留置法で調査し、その後、2009年よりインターネット調査に切り替わった。

登山人口の推定には、主に、ここでの調査結果が使用される。

なお、レジャー白書は10月に発刊されるため、ここで報告する「2022発刊」は、コロナの影響が続く2021年データとなる。

**400万台にまで冷え込んだ登山人口**

登山人口は、長く続いた「平成の登山ブーム」が終了し、図3に見られる440万にまで冷え込んだ。

コロナによる制限と登山ブームを支えてきた世代の高齢化によるものと思われる。コロナからの回復に期待したい。

なお、白書における「余暇活動の参加率上位10種」表にも長年8位あたりで「登山」項目が顔を出していたが、ほぼ消滅した。一方、80歳台世代に限った調査でも、参加率は第一位はウォーキング(散歩)であり、登山は男性10位と消滅に近い。

マイナーな流れの中で、画家小林康彦「日本百低山(文春文庫)」をもとにNHKで制作した吉田類の「つぼん百低山(標高1500m以下)2020〜」は好評で、少し登山人口を呼び戻してくれている。



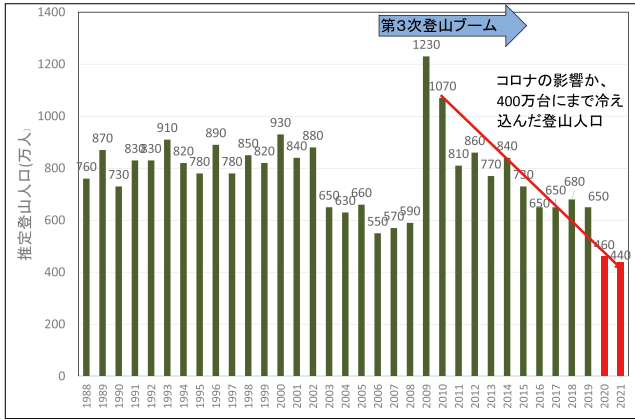


図3 コロナの影響で登山人口が一気に減少した。今後の回復に期待したい

### 間違いと訂正

登山月報2023年8月号7ページの第20回山岳遭難事故調査報告書で下記の間違がありましたので訂正します。

#### 【9ページ】

##### ●富士山の番号と月の変更

19、富士山救助活動事故 ⇒ 20、富士山救助活動事故  
2013年2月 ⇒ 2013年12月

##### ●アコンカグアの番号変更

20、アコンカグア… ⇒ 19、アコンカグアガイド…

##### ●21、御嶽山における月を変更 2014年7月 ⇒ 2014年9月

##### ●表2の20の判例の事故の時期 2月 ⇒ 12月

#### 【10ページ】

##### ●2、朝日連峰凍死事故の月を変更

1967年3月 ⇒ 1967年4月

次回へ続く

# JMSCA

## 令和5年度 第5回 ハイブリッド理事会議事録

○日時：令和5年6月18日(日)  
15:10～17:30

○場所：AP浜松町F会議室と  
Webのハイブリッド会議

○出席者：丸、小日向、古賀、小野寺、蛭田、濱田、赤尾、町田、前田、山本、栗田、水村、安井、山口、野村、小高、望月、中橋、吉田、飛松、佐藤、樋口、島田、中島、杉本、西谷、畑中、平田、小田部各理事、古屋、佐久間各監事

### 1. 開会

### 2. 会議成立状況報告

理事数29名中29名出席、監事数2名中2名出席(定款第33条、定足数=1名(1/2以上))

### 3. 前代表理事(丸会長)挨拶

まず代表理事を決め、代表理事が、役員の方の提案をすることになる。JMSCAの未来のために代表理事の候補者として、自薦、他薦の方がいたらお願いしたい。

### 4. 議長選出

丸前会長が議長を務める(定款第32条)。

### 5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

### 6. 議題(注. 審議順に記載)

#### 議案第1号 代表理事の理事会決定、業務執行理事の代表理事による選定及び理事会による決定、各々の管掌業務について

丸理事が代表理事として推薦され、採決の結果、賛成28名で、選任された。

代表理事が、業務執行理事について、現時点で素案はないので次回理事会までに、副会長4名以内、専務理事1名、業務執行理事13名以内で提案することになった。

#### 今後の補正予算について

●山岳スキー委員会について  
補助金が取れたからということではなく、事業目的と、具体的に何をやるのかというプランを、明確にしたうえで、補正予算に落とし込んでいく。

#### 今後行うことと、日程について

●検証PT、緊急対策会議、補正予算の作成など、日程を決める。

#### 予算の執行状況と今後について

- SC競技については、これから予定している大会をやめて、協賛金を減額するという案もある。
- SC理事全員が現状を理解したうえで、来週中(6月末)までにSCの事業、優先順位を協議し決めていくようにし、それをベースにして、補正予算を組んでいく。
- 八王子BWC、BLJCについては、早めに全体の数字を明確にする。
- 予算管理についての改善PTの立ち上げが必要。
- 予算委員、執行管理などの在り方の検討については、補正予算の後になる。

#### 緊急対策について

- 旅費の節約のために次回以降会議は、Zoomを基本とする。
- 理事会は極力対面をお願いしたいが、対面で、JSOS3Fに来た場合には、理事、監事の旅費自己負担を前提としたい。
- JMSCA全体の問題として、登山部も協力していくことも考えるが、登山部の行事は凍結すると影響も大きく、岳連への影響も大きい。
- 登山部の行事について特に制約はつけず、進める。

#### その他

- 理事会は、従来は毎週第2木曜日で、次回は7月13日(木)PM2:00～を予定。
  - 役員(理事)が変わった件の内閣府への申請は、7月に提出予定。就任承諾書は、各理事あて郵送予定ですので返信するよう、小野寺専務理事から伝達された。
  - 当面、事務局の体制は、次回理事会の7月13日まで、現状のままで対応する。
- 上記の後、役員(理事監事)研修を、恒石ガバナンス委員会委員長が16:10～17:30で行った。

以上  
令和5年6月18日  
記録 赤尾 浩一

# JMSCA

## 令和5年度 第6回 ハイブリッド理事会議事録

○日時：令和5年7月13日(木)  
14:00～18:35

○場所：JSOSビル3F会議室1と  
Webのハイブリッド会議

○出席者：丸会長、蛭田、飛松、吉田、山本各副会長、小野寺専務理事、古賀、濱田、赤尾、町田、栗田、望月、安井各常務理事、佐藤、樋口、中島、小日向、水村、杉本、西谷、畑中、平田、小田部、前田、山口、野村、小高、中橋各理事、古屋、佐久間各監事  
オブザーバー：百瀬競技委員長

○欠席：島田理事

### 1. 開会

### 2. 丸会長挨拶

本日は、新体制についての話が中心になる。各新理事の方とは個別に面談も行いましたが、全力で対応していただきたいと思う。

### 3. 会議成立状況報告

理事数29名中28名出席、監事数2名中2名出席(定款第33条、定足数=15名(1/2超、決議は出席理事の過半数をもって行う。))

### 4. 議長選出

丸会長が議長を務める(定款第32条)。

### 5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

### 6. 議題(注. 審議順に記載)

#### 議案第1号 第5回(6月実施)理事会の議事録の承認について

質問は特になく、異議なく承認された。

#### 議案第2号 令和5年度業務執行理事について

業務執行理事について、丸会長が画面に表示し推薦の経緯を説明した。副会長4名以内、専務理事1名、等含めて業務執行理事13名以内の前提で、副会長について候補者4名の説明と質疑応答を行った。

筆頭副会長:不測の事態、会長不在の時に、会長代理として執行、蛭田理事、副会長:飛松、吉田、山本(譲)各理事が推薦された。

副会長は、特定事業だけでなく全事業にかかわる課題に取り組むため、登山部、SC部を



分掌するということはない。代わりに、SC部長や、登山部長が責任を持つ。その他業務執行理事については、以下の質疑応答があった。

- 登山部長、SC部長と副会長とはどういう関係、役割分担になるのか。
- 登山・SC部長は、困ったときにどの人に相談すればよいのか。  
→専務理事に相談する。
- 各問題は、業務執行理事も、理事も、同じ当事者意識をもって対応する。
- SC部、登山部長は、できるだけ自己完結できるように、権限も責任も持つ。
- 山岳スキーは独立させるには時期早尚と考え、従来どおり登山部となっている。
- 特にSC部長は、従来とくらべて、権限も責任も重くなっている。
- 副会長は、副会長会のようなものを設定し、同じ情報を共有し、協会全体の問題を解決に向けて協議する。
- 副会長については、協賛企業の開拓と同時に、既存スポンサーへのアカウントリタイアの維持をお願いしたい。
- 各業務執行理事の役割と期待について協議した。

その後、以下の3案について賛成者数の採決を取った(元々議長を除き27名の有効投票数)。

案1. 原案どおりの業務執行理事案(町田SC部長): 賛成6名

案2. 町田SC部長及び栗田SC副部長両名とも業務執行理事とし、望月理事は現行理事のままとする。: 賛成5名

案3. 町田SC部長及び栗田SC副部長、望月理事を業務執行理事とする。: 賛成14名  
案3の賛成者数は、過半数の14名で、当案で確定となった。

#### 議案第3号議案 各理事の担務について

山岳スキー委員会、自然保護委員会、アスリート委員会(山岳スキー選手も対象に入れる)、SC指導委員会についてコメントもあったが、この後SC委員長、副委員長会議もあり、本日の内容を共有したのち、次回理事会で提案という形となった。

#### 第4号議案 補正予算について

濱田常務理事から、配布資料を基に説明した。

- 財源計画の見直しをへて、当初予算と比べて△1億3,200万円となっている。6月までの支出実績から、7月以降支出可能金額は、1億2,500万円。3,000万円は山岳スキーということなので、9,500万円が、SC部で支出可能な金額。
- 以下の観点で事業を見直している。

- ①交付金、助成金で100%まかなえる。中止しなくてよい事業
  - ②補助金、助成金、協賛金等、その他財源を充てる事業
  - ③自主財源を100%使用で計画事業を層別する。選手強化・競技で支出の8割を占める。
- 今後行うこと

1. 中止する事業を確定
  2. その他の方法の検討  
登山部で国体予算の一部を負担など。
  3. 山岳スキーで負担3,000万円(現在3,600万円の支出計画)を見直し。登山部傘下ではあるが、予算管理の上ではSC部と同じ立ち位置となる。
- その後、支出削減と、収入増にむけて様々な意見が出された。

小野寺専務理事が配布資料を基に説明し

た。調査ではなく検証委員会とする。全体で5名くらいのメンバーとし、内部調査という形で、監事にも入っていただき、さらに3-4名とする。委員長が招集し、報告書をまとめ正会員へ報告する。

- ・期日を入れる(迅速に3か月以内でまとめる)ようにする。
  - ・財務委員会へインタビューしてほしい。
  - ・人選は事務局に一任する。理事会承認なので理事全員に理由を含めて伝える。
- 上記内容で全員異議なく承認された。

#### 議案第6号 上期海外登山奨励金審査について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。4隊中1隊目は、計画書の中身に齟齬があり、問題があるので、残りの3隊を奨励金対象とする。

後期は申しこみができそうもないので、金額を30万円から減額したうえ(金額は審査委員会及び事務局に一任)で採決の結果、以下ようになった。

棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成24名

#### 議案第7号 山岳コーチの承認(指導委員会)について

蛭田副会長が配布資料を基に説明した。山岳コーチ1、2名とも合格点180以上となった。

①影山 知香子

②金井 剛

異議なく、承認された。

#### 議案第8号 JMSCA加盟団体振興推進PTメンバーについて

古賀登山部長が、配布資料を基に説明した。亀山前副会長からリーダーを引継ぎ、メンバーとして9ブロックの代表+高体連代表が発表された。西原国体委員長ははずれた。

当メンバーについて異議なく承認された。

#### 議案第9号 強化委員会からの承認依頼

安井強化委員長から配布資料を基に説明した。

- (1)アジア競技会派遣内定選手&スタッフ
- (2)世界選手権ベルン大会 派遣選手
- (3)アジアコンチネンタルカップ派遣選手選考基準(理事会での承認)

本遠征に関する費用は、全額選手負担とする。コーチ、監督は1-2名が帯同し、JOC補助金でまかなう。

- (3)について、選考基準5-(3)他の種目に上限を満たさない場合には、参加を認めるとある部分の表現について問題ないかとの指摘があった。

また、選考基準等は、アスリート委員会杉本委員長が、理事として審議に参加しない方がよいので、決議は不参加とするよう依頼があった。その後、以下の内容について採決を取った。

- (1)2023年世界ユース選手権大会派遣選手選考について  
棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成24名
- (2)アジア競技会派遣内定選手&スタッフ(常務理事会承認事案)  
棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成24名
- (3)世界選手権ベルン大会派遣選手(常務理事会承認事案)  
棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成4名

- (4)強化委員会常任委員について(常務理事会承認事案)  
棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成24名

#### 追加議案第2号 アスリート委員会規程と常任委員について

杉本理事が配布資料を基に説明した。委員長、副委員長、常任委員として合計14名とした。規程上は15名以内としたい。専門委員は置かない代わりに常任委員とする。

上記変更について、採決の結果以下ようになった。

棄権ゼロ、反対ゼロ、賛成23名

#### 議案第10号 SC部委員会新体制と名簿について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。SCの各委員会及び常任委員については次の常務理事会までに作成し、その上で協議することになった。

#### 追加議案第1号 SDGs常任委員について

前田理事が配布資料を基に説明した。新メンバーについては次の常務理事会で提案ということになった。

#### 議案第10号 国際AC委員会名簿について

主管理事が委員長を推薦し、委員長が常任委員として推薦した委員をまとめている。異議なく承認された。

## 7. 報告

#### JMSCAフレンドについて

蛭田副会長が説明。6月末で完成し、7/13本日午前中マニュアルを配布し、説明会をおこなった。7月中旬からテスト開始。夏山リーダーについて上中級、申込、支払い等行い9月末までテスト。自然保護指導委員、山岳スキー等に今後展開予定。

JMSCA共通フォームの共有フォルダー使用9月まで。10月以降は、JMSCA内に展開を予定。100円/月/1名で登録費用を考えている。

それに対応して、どういうリターンを登録者に用意したらよいかを検討中。

#### 選手強化費用の新たな調達について

丸会長が、配布した“選手強化費用の新たな調達”資料を基に紹介。

大学ファンド10兆円(政府が補助)とその運用益を助成金として使用する。

アーバンスポーツファンド(300億円、JMSCA以外にも参加協会を募る)を立ち上げる予定。

#### 報告第2号 JSPPO定款の改定について(参考)

小野寺専務理事が、配布資料に基づいて説明した。

#### 報告第1号 月次報告について

小野寺専務理事が、配布済の6月度決算報告をご参照くださいと伝達した。

#### 報告第3号 日山協山岳共済会、山岳遭難保険金支払いに関するSNSについて

小野寺専務理事が配布資料を基に、当該SNSでどうアナウンスされたか、保険会社と当事者でどうやりとりがあったかの経緯、HPでのQ&Aの扱いを説明した。

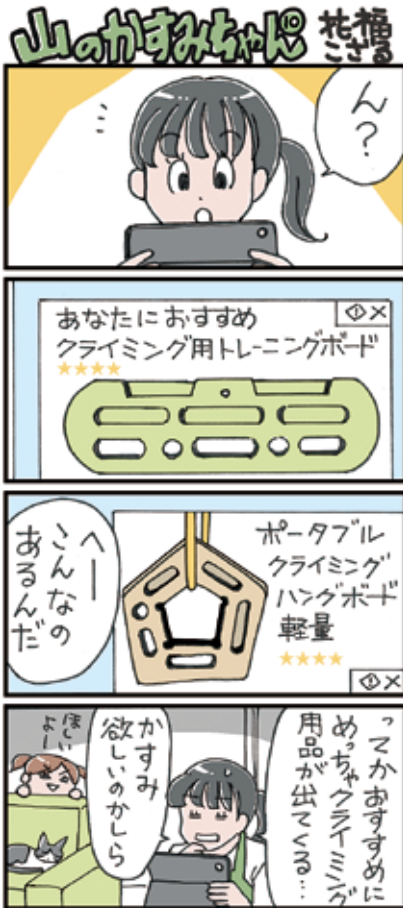
## 8. その他

今回、新たに役員となった以下の理事が、自己紹介と今後の抱負を述べた。

飛松副会長、吉田副会長、小田部理事、杉本理事、西谷理事、佐藤理事、畑中理事、樋口理事、平田理事

以上  
令和5年7月13日  
記録 赤尾 浩一

8月号より開始! かすみちゃんのハイキング日記



## 表紙のこぼれ

日本百名山では「飯豊山」となっているが、大きなうねりをもって2,000m級の峰々が続く様子に、私達は「飯豊連峰」と呼ぶことが多い。

日本海にほぼ平行して連なる峰々は、東面となる山形県側に豪雪をもたらし、最深の積雪は50mとも言われる。

峻険な渓谷が多い中で比較的開けた「石転び沢雪渓」は登山コースになっているが、そのまま稜線まで雪渓を突き上げるため、ピッケルやしっかりとしたアイゼンを装備し、ルート選択技術やピッケルストップ技術が必須である。

(山形県山岳連盟 理事長 井上 邦彦)

## 編集後記

剣の夏合宿は、中止になりました。長次郎谷の雪渓が出会いから半分くらいまで雪渓通しは登れなく高巻きしている。八ツ峰6峰を登った後は長次郎谷を下れないということ、台風が直撃しそうなので中止し代わりに、有明山と七面山に登ってきました。来年も計画しますが、温暖化の影響で雪渓が少なくなり登れるか心配になります。

登山月報10月号より編集長が交代になります。2021年8月号より25回、大勢の皆様のご協力のおかげで何とか系私のでも発行できました。ありがとうございました。新しい編集長にもご協力の程、よろしくお願います。

(蛭田伸一)

**トレランJAPAN**  
一般社団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031  
品川区西五反田6-3-23-205  
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第654号

定価 110円 (送料別)  
予約年間 1,300円 (送料共)  
(毎月1回15日発行)

発行日 令和5年9月15日  
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号  
Japan Sport Olympic Square 807  
公益社団法人  
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631  
FAX 03-5843-1635

[山岳雑誌] 山と人、時代をつなぐ

# 岳人

10月号

特別  
編集

# 秋山2023

五感で味わう秋の山

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



モンベルクラブ入会キャンペーン実施中!

▶年間購読が断然おトクに!

年間購読 通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには モンベルポイント **5,000P** プレゼント!

モンベルクラブ会員さまで現在年間購読中の方は、次回継続時に5,000ポイントをプレゼントします。

年間購読特典

岳人 U.L. ショルダーバッグ



※カラーはお選びいただけません。  
軽量で丈夫な生地を使用。登山中のサブバッグに!

限定デザイン

岳人カード

全国2,000カ所以上で  
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>  
<https://www.gakujin.jp/>



全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ  
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797  
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。



# SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギーの普及支援</li> <li>自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング</li> </ul>	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくりの支援</li> <li>先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応</li> </ul>	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等)</li> <li>災害に強いまちづくりの支援</li> </ul>

立ちどまらない保険。

**MS&AD 三井住友海上**

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会\*をめざします。

\*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会





# 登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」  
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからもお申込みいただけます